



# みらいっうしん

9月号

2019年9月2日  
 田園調布学園大学  
 みらいこども園  
 園長 勝浦 芳子



## 【生きる力を育てるために】

厳しい暑さが続いた夏も終止符が近づき、頬を伝う風が少しずつ秋の訪れを感じさせています。天候も台風などの影響で変わりやすくなりますので、体調には十分気をつけてください。

子どもたちの様子ですが、幼児は、特にこの夏に体験したことや出来るようになったことを、大好きな友達や保育者に、夢中になって話をする姿や体験から学んだことを自分の力に変えて、自信を持って行動する姿が多く見られるようになりました。乳児も安心した環境の中で、自分を出せるようになり、周囲にも興味関心をもって活動の範囲が広がっています。この変化は、自主性が育っている証ですし、みらいこども園が目指す子どもの姿に近づいているなどとても嬉しく思います。

さて、本園保育者・職員にとっても、7～8月は研修・研究に取り組み、日々の保育を見直し、教育・保育のよりよい在り方を皆で学びあう貴重な時間にあてました。また、他園、他校、行政等から多くの方が見学に見えました。来園された方々が、見学を終えて感想をお話くださった内容の多くは、「みらいこども園は子ども達の自主性を大事にしている。」このことに関連して、「保育者が主導・先導する場面がほとんどなく、子どもが主体となるような働きかけをしているのがとても素晴らしい。」ということでした。教育者や保育者は、とかく、子どもを教える対象者と考えてしまう傾向があり、環境が整わないと、つい、子どもの意見や行動を抑制してしまうところがあります。ほとんどの園は、保育者主体の保育になっていることを課題にしています。初めて本園の教育・保育の様子をご覧になった外部の方々に、我がこども園が大切にしている保育を褒めていただいたことは、何よりも嬉しく思いました。

2学期は、行事も多く子ども達が、それぞれの力をステップアップする時期でもあります。私たち保育者も集団の場であっても、一人一人の学びや育ちを保障していくためには、個々の興味・関心に気づき、“やってみよう”という気持ちを十分に満足させ、子どもの心情や発達を十分に理解せずに、大人の都合で子どもを集団行動的に動かそうとすることのないように、常に、保育を振り返り、園児一人一人の人格を大事にした時間や場所の保障を考えていきたいと思っています。そして、この乳幼児期に培ったものが、将来、どんなことにも自分で生きていける力に反映していけることを心から願います。

(勝 浦)



新しい遊具棚と日よけを設置しました



スイカおっきい！



夏野菜っておもしろい！



朝、「おはよう」と挨拶を交わす時、子どもからの返事や一瞬の表情からいろいろな思いを感じとります。明るい元気な返事でもアイコンタクトや満面の笑み、はにかんでいる視線から「先生今日も元気にみらい園に来たよ！」「一緒に遊ぼうね」の気持ちが伝わってきます。不安で涙を流さずにはいられないときには、その繊細な心情に寄り添いたい一心でそばにいます。お子さんが集団に入る前の「私と先生」の貴重な挨拶の時間を職員一同、大切にしていきたいと思っています。2学期もよろしくお祈りします。

中城真由美